



第9回

株式会社ジャックスの巻

【お話を伺った方々】 ■経営企画部 経営企画課 社会貢献推進事務局

田島芙美さん 宮本 廣さん

【聞き手】工俣ぱれっと 玉井七恵【記事作成】事務局長 南山達郎

企業訪問第9回は「株式会社ジャックス」様(以下ジャックス)です。社会貢献推進事務局立ち上げから現在に至るまで、ぱれっととのつながりだけではなく様々な社会貢献を進めてきたその経緯を伺いました。

●ぱれっととのつながり

《玉井》ぱれっととの出会いは・・・

《田島》ジャックスに新しく社会貢献推進事務局が立ち上がったのが2015年4月でした。私は社内公募でこのセクションに応募したのですが、ノウハウも何も無く、どう進めていこうかと考えて、まずは東京ボランティア・市民活動センターに相談しました。そこで本社が恵比寿ということもあって、ぱれっとを紹介していただいたのが始まりでした。作業所製品の社内販売会を薦めていただきましたね。

《玉井》初めての販売会は翌2016年のバレンタインの時期でしたね。

《田島》はい。やはり何かイベントと組み合わせたほうが社員も参加しやすいのではないかと。その結果、反響は予想以上でした。確か役員も含めて、本社社員の半分以上が買い物に来たように覚えています。

《玉井》その時にマッチングギフト(※1)も設定していただきましたね。

《田島》はい。この時、社員の中に「会社がそこまでバックアップしてくれるんだ」という声が多くあって、一気に社会貢献への意欲が高まったように思います。

《玉井》それ以来販売会だけではなく、植物をぱれっとビルと一緒に植えていただいたり、東京ドームでの野球観戦、ぱれっとのバザーも含めて本当にお世話になっています。

《田島》販売会を通して、社内ではぱれっとの知名度が上がっていきまして・・・(笑。色々な行事を通して、「一緒に楽しみたい」と考える社員が多いようですね。

《宮本》もともと以前から「きっかけがあれば何かやってみたい」と考えている社員はいたと思います。私たちはその場の提供ができれば、と。

●社会貢献活動

《玉井》ぱれっとへのご支援以外にも様々な社会貢献活動をされていらっしゃると思いますね。

《田島》社会貢献推進事務局としてはまだ歴史が浅いのでとにかく社員が参加しやすいようにと試行錯誤しながら企画しています。昨年のクリスマスには間伐材(※2)にヤスリをかけて積木に加工する簡単な作業を社員に担ってもらい、それを近隣の幼稚園などに寄贈するというプログラムを行ないました。本社だけではなく、支店にも参加してもらい、中には寄贈の際、サンタクロースの扮装で行なったところもあったようです。

※1：マッチングギフト・・・寄付など、社員の社会貢献に対して、会社がそこに上乗せをして支出する制度。

※2：間伐材・・・森林の成長過程で密集化する立木を間引く『間伐』の作業で発生する木材

《南山》それは楽しいですね。

《田島》はい。やはりこうしたプログラムは「相手の顔が見える」ことが重要だと思います。寄贈先での子どもたちとの楽しそうな写真を見てそのことを実感しました。こういう体験はその先につながりますよね。

《宮本》この他にもボランティア休暇制度だったり、カードのポイントを貯めて寄付に充てるという制度もあります。今後はこうした環境を充実させつつ、さらに社員が参加しやすいプログラムを考えていくつもりです。

《玉井》私が関わっている「シブヤフォントプロジェクト」で、障がいのある人たちが書いた文字をデザイン化して色々な商品に使ってもらうよう働きかけているのですが、その呼びかけにいち早く答えてくださったのがジャックス様でした。

《田島》そちらはもう少しで形になるとと思いますが、ギフトカードのようなものを使用する予定で進めています。渋谷区の超福祉展でもお話しを伺いましたが、とても素晴らしい取り組みだと思います。

●今後のぱれっととのつながりについて

《玉井》私たちとの今後のつながりについては何かご要望などありますか？

《田島》ぱれっとの商品は種類が多いので、購入の際に何か指針になるような、例えば「売上ランキング」や「今回のイチオシ」のようなプロモーションを手掛けていきたいと思っています。前回

の販売会で少しやってみましたが、何を買おうか迷っている社員には大いに参考になったようです。

《宮本》そう言えば、『ぱれっとのお菓子を人に紹介したいので何かチラシのようなものは無いか』という声がありましたね。販売会の時だけではなく、その後の注文にもつながるようなものがあったら良いかも知れません。

《玉井》そうですね。贈答品など、特別仕様の商品の紹介も含めて今後、そうしたツールも用意します。

《田島》後は、他企業様とのつながりやその取り組みの中で、面白いシステムや企画の情報があたらご提供いただきたいと思います。私たちも大いに学びになりますので。

●最後に

《玉井》最後に抽象的な質問かも知れませんが、「企業が社会貢献することの意味」について、ご意見をお聞かせくださいますか？

《田島》会社は社員に仕事をしてもらうところですが、同時に仕事だけではなく、社会貢献を含めて、色々な「景色」を見せられる場所だと思うんです。こうした動きを通して、「人間力」とでも言うのでしょうか、そういったものを育てるという会社としての姿勢を、本業に加え、もうひとつの側面として見ていきたいと思っています。

《玉井》本日はありがとうございました。

お話しを伺っていて幾度となく、会社の風通しの良さ、フットワークの軽さを感じました。また、無理せず、強制せず、「社員の参加しやすいことから地道に」という企業の社会貢献の大切な原点を見たようにも思いました。(みなみやま)